

総合評価の導入進む

07年度 半数の47市町村が実施

四国整備局管内

四国地方整備局は、管内自治体の総合評価方式を取り組み状況をまとめた。07年度は全市町村95

団体のうち47団体、率にして49%で総合評価方式を実施しており、06年度の2団体(2%)から大幅に増加しており、全国の24%と比べても導入が進んでいる。08年度はさらに導入する自治体が増加することが予想されるが、既に07年度に実施している自治体でも数件の試行にとどまっている状況で、すべての自治体で本格導入となるには時間がかかりそうだ。

取り組み状況を県別にみると、徳島県は24団体のうち11団体で実施。市では小松島市、吉野川市が未導入となっている。香川県は17団体のうち10団体で実施。未導入の市は坂出市と善通寺市。愛媛県は20団体のうち14団体が未導入。高知県は34団体のうち12団体で実施しており、室戸市、安芸市、須崎市、宿毛市、香南市、香美市が未導入となっている。

一方、4県の07年度の状況は、徳島県は3000万円以上の工事について原則実施とし(1000万円以上3000万円未満についても試行)、235件で実施。香川県は緊急性の高い工事や適

用する必要がないと認められるものを除いて原則すべての工事を対象とし、53件で実施。愛媛県は一般競争入札(3000万円以上)の中から39件を試行。高知県は一般競争入札の対象となる工事のうち7500万円以上(2500万円以上7500万円未満での試行)を対象に87件を実施した。

四国地方整備局では、県と連携しながら市町村支援を行い、08年度は100%の導入を目指したいとしている。